

日本航空株式会社 2015年3月期第3四半期 決算説明会



2015年1月30日
取締役専務執行役員 齊藤典和



2015年3月期第3四半期 業績概要

P.2



2015年3月期業績・配当金予想について

P.3



2015年3月期第3四半期 業績詳細

P.5



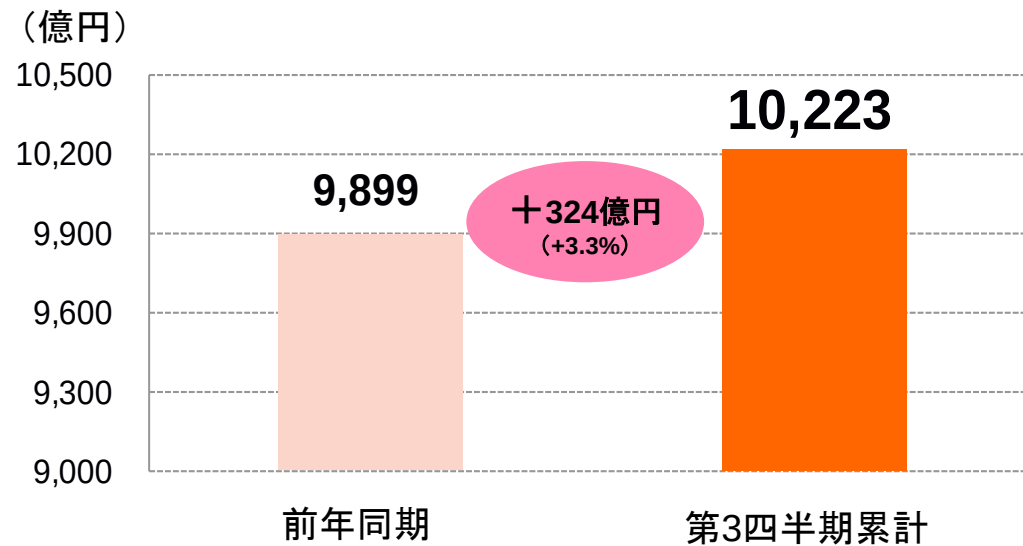
参考資料

2015年3月期第3四半期 業績概要

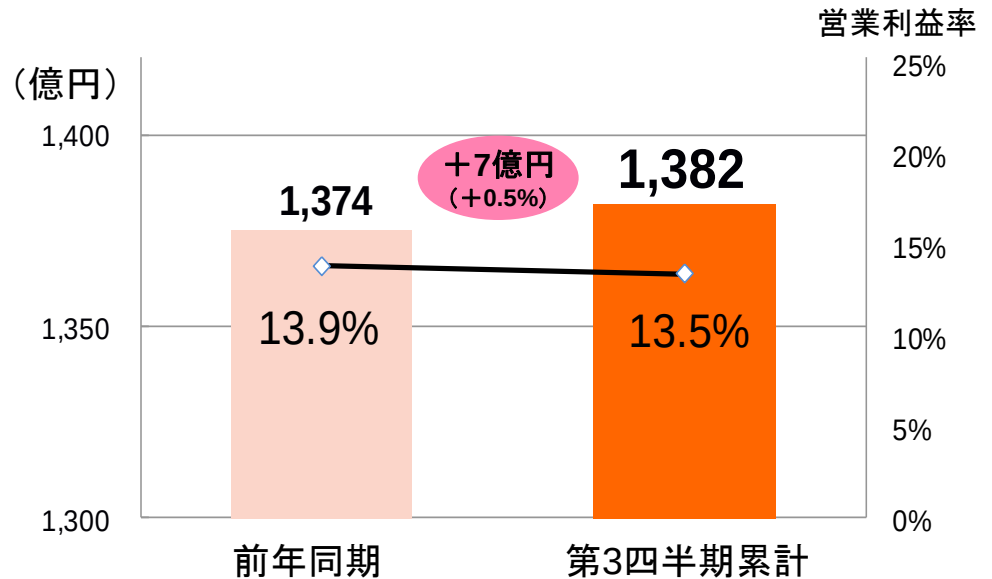


JAPAN AIRLINES

営業収益



営業利益



燃油・為替市況実績

	前年同期	第3四半期 累計	前年同期比
為替 (円/USD)	98.8	105.0	+6.3%
シンガポールケロシン (USD/bbl)	120.8	114.1	▲5.5%
ドバイ原油 (USD/bbl)	104.4	98.9	▲5.3%

- ✓ 前年比で増収増益となり、営業利益は1,382億円
- ✓ 営業利益率は13.5%となり、目標とする営業利益率水準(10%以上)を上回って順調に推移

- 2015年3月期第3四半期の営業収益は、前年対比3.3%増加の1兆223億円となりました。
- 国際線の増収などに加え、第3四半期に入ってから国内旅客の単価が対前年で上昇に転じ、四半期単独では、国内旅客も増収となりました。一方費用面ではこれまで増加していた燃油費が当第3四半期単独では前年並みの水準に抑えられたことから、営業利益は前年比で増益の1,382億円となりました。
- 営業利益率は13.5%となり、目標としております10%以上の営業利益率達成に向け進捗しております。

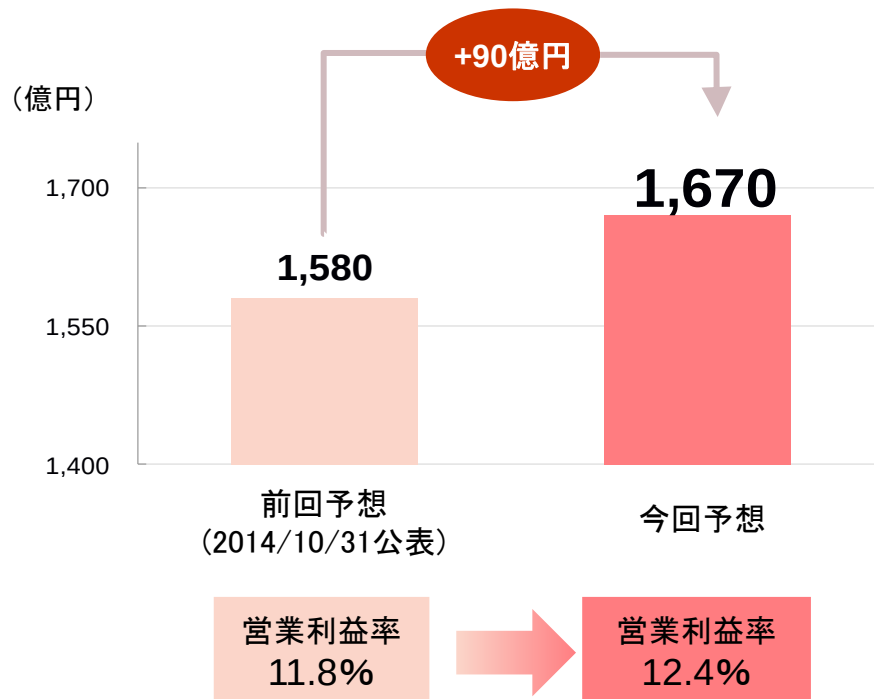
2015年3月期通期業績予想の修正



JAPAN AIRLINES

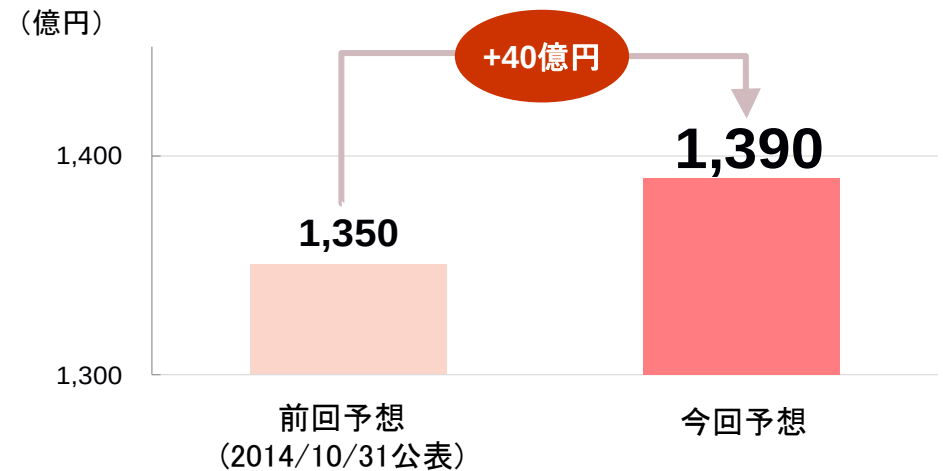
営業利益の上方修正

- ✓ 第3四半期の実績を勘案し、通期営業利益予想を修正
- ✓ 営業利益1,670億円、営業利益率12.4%



当期純利益の上方修正

- ✓ 当期純利益は前回予想から40億円増加の1,390億円



- 2015年3月期通期の業績予想については、第3四半期の実績等を勘案し、前回予想の1,580億円から1,670億円へと90億円上方修正しております。その結果、営業利益率については、12.4%となる見込みです。
- 当期純利益予想については、前回予想1,350億円から1,390億円へと変更し、40億円上方修正しております。引き続き利益の極大化を目指して努力してまいります。

配当金予想

株主還元の充実

連結当期純利益から
法人税等調整額の
影響を除いた額の
20%程度

連結当期純利益から
法人税等調整額の
影響を除いた額の
25%程度

2015年3月期の1株当たり配当金

97円00銭
(予定)

配当金計算

	2014年3月期 実績	2015年3月期 見通し	
		今回公表値	前回公表値 (2014/10/31)
連結当期純利益	1,662億円	1,390億円	1,350億円
法人税等調整額	▲214億円	+20億円	—
	1,447億円	1,410億円	1,350億円
配当金総額	290億円	352億円	—
発行済株式総数 ^(*)	362,704千株	362,704千株	362,704千株
1株当たり配当金額 ^(*)	80.00円	97.00円	—

(*)2014年10月1日付で株式分割を行っており
発行済株式総数と1株当たり配当金額は
当該株式分割が前連結会計年度の期首
に行われたと仮定して算出

- 今般、財務基盤の強化が着実に進捗していることなどを勘案した結果、株主還元の充実を図るべく、従来の配当性向は連結当期純利益から法人税等調整額の影響を除いた額の20%程度だったものを、同25%に変更させていただきます。
- これに基づく、今期の配当金予想額は1株当たり97円となります。

連結経営成績



JAPAN AIRLINES

2015年3月期 第3四半期 連結経営成績

(単位:億円)	前年同期	第3四半期 累計	前年 同期比	第3四半期 (1)	前年同期比
営業収益	9,899	10,223	+3.3%	3,386	+2.4%
航空運送連結	8,836	9,099	+3.0%	3,006	+2.1%
営業費用	8,524	8,841	+3.7%	2,932	+1.5%
航空運送連結	7,597	7,860	+3.5%	2,593	+1.0%
営業利益	1,374	1,382	+0.5%	453	+9.0%
航空運送連結	1,238	1,238	+0.0%	412	+9.5%
営業利益率 (%)	13.9%	13.5%	▲0.4pt	13.4%	+0.8pt
経常利益	1,312	1,374	+4.8%	457	+11.5%
四半期純利益	1,235	1,196	▲3.1%	393	▲5.3%
ASK(百万席キ口)	63,255	63,404	+0.2%	20,925	▲0.1%
RPK(百万人キ口)	44,652	45,345	+1.6%	15,021	▲0.2%
EBITDAマージン (%) (2)	20.1%	19.9%	▲0.3pt	19.9%	+0.9pt
EBITDARマージン (%) (3)	22.5%	21.8%	▲0.8pt	21.8%	+0.3pt
ユニットコスト(円) (4)	8.7	8.8	+0.1	9.0	+0.1
燃油費含む	12.0	12.4	+0.4	12.4	+0.1

✓ 営業収益は10,223億円となり前年比+3.3%

✓ 営業利益は1,382億円となり前年比+0.5%

✓ 営業利益率は13.5%

- 注: 1. 第3四半期(10-12月)の実績は第3四半期累計実績(4-12月)から第2四半期累計実績(4-9月)の実績を差し引いて算出
 2. EBITDAマージン=EBITDA/営業収益 EBITDA=営業利益+減価償却費
 3. EBITDARマージン=EBITDAR/営業収益 EBITDAR=営業利益+減価償却費+航空機材賃借料
 4. ユニットコスト=航空運送連結費用(燃油費、収入費用両建ての関連会社向け取引を除く) / ASK

- 収支の状況ですが、当第3四半期の営業収益は、国際線における旅客収入の増加を主な要因として、前年同期に比べ3.3%増加し、1兆223億円となりました。
- 営業費用につきましては、円安及びサービス強化のための費用増を主な要因として、前年同期対比で3.7%増加し8,841億円となりました。
- 結果、当社の2015年3月期第3四半期の営業利益は1,382億円となり、売上高営業利益率は13.5%となりました。
- 燃油費を除くユニットコストは8.8円となり、円安などを要因とし前年同期に比べ0.1円上昇しましたが、引き続きコスト管理を徹底してまいります。

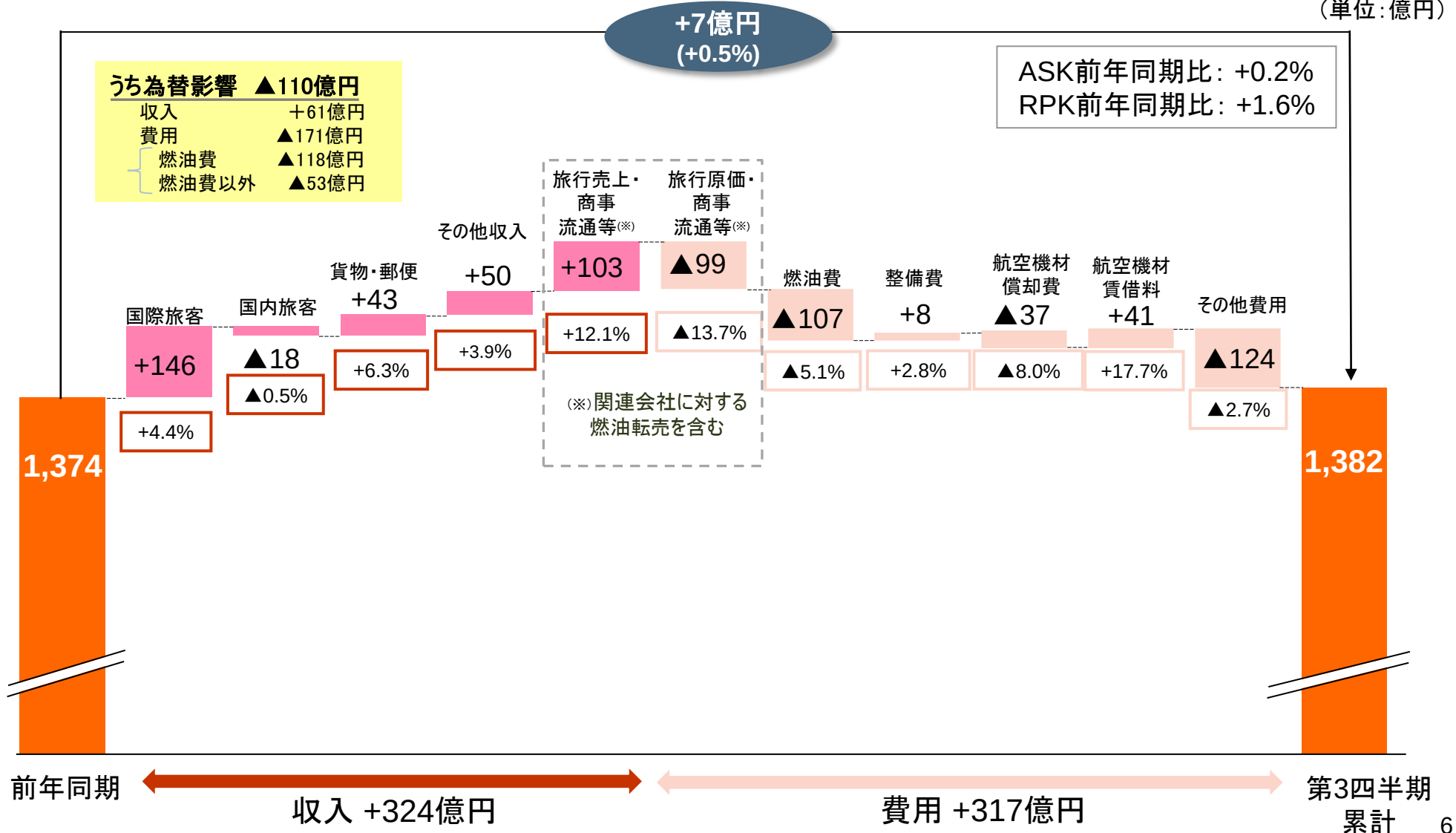
営業利益増減の推移



JAPAN AIRLINES

2015年3月期 第3四半期

(単位: 億円)



- 収入については、前年同期と比べ、国際線で146億円の増収、国内線では18億円の減収となりました。その他の収入も含めると、合計324億円の増加となりました。
- 費用面では、供給の増加に加え、燃油の単価は下落したものの円安及び搭載量増加に伴う燃油費の増加などにより、費用は317億円の増加となりました。
- 結果、営業利益は前年から7億円増加の1,382億円となりました。

国際旅客事業(輸送実績)



JAPAN AIRLINES

国際旅客事業の状況

	前年 同期	第3四半期 累計	前年 同期比	第3四半期 (1)	前年 同期比
旅客収入 (億円)	3,313	3,459	+4.4%	1,120	+2.7%
ASK (百万席キロ)	34,842	35,946	+3.2%	11,957	+1.7%
RPK (百万人キロ)	26,557	27,102	+2.1%	8,917	▲0.4%
有償旅客数 (千人)	5,786	5,808	+0.4%	1,912	▲1.4%
座席利用率 (%)	76.2	75.4	▲0.8pt	74.6	▲1.6pt
イールド ⁽²⁾ (円)	12.5	12.8	+2.3%	12.6	+3.1%
ユニットレベニュー ⁽³⁾ (円)	9.5	9.6	+1.2%	9.4	+0.9%
単価 ⁽⁴⁾ (円)	57,255	59,568	+4.0%	58,577	+4.1%

✓ 旅客収入は3,459億円となり前年比+4.4%の増収

✓ 座席利用率は75.4%

- 注: 1. 第3四半期(10-12月)の実績は第3四半期累計実績(4-12月)から第2四半期累計実績(4-9月)の実績を差し引いて算出
 2. イールド=旅客収入/RPK
 3. ユニットレベニュー=旅客収入/ASK
 4. 単価=旅客収入/有償旅客数

- 国際線におきましては、ASKは前年同期比で3.2%、RPKは同2.1%の増加となり、座席利用率は75.4%となりました。
- また、SKY SUITEの導入や、円安により海外発旅客の単価が向上したことなどから、イールドが2.3%、単価が4.0%上昇し、旅客収入は4.4%増加の3,459億円となりました。

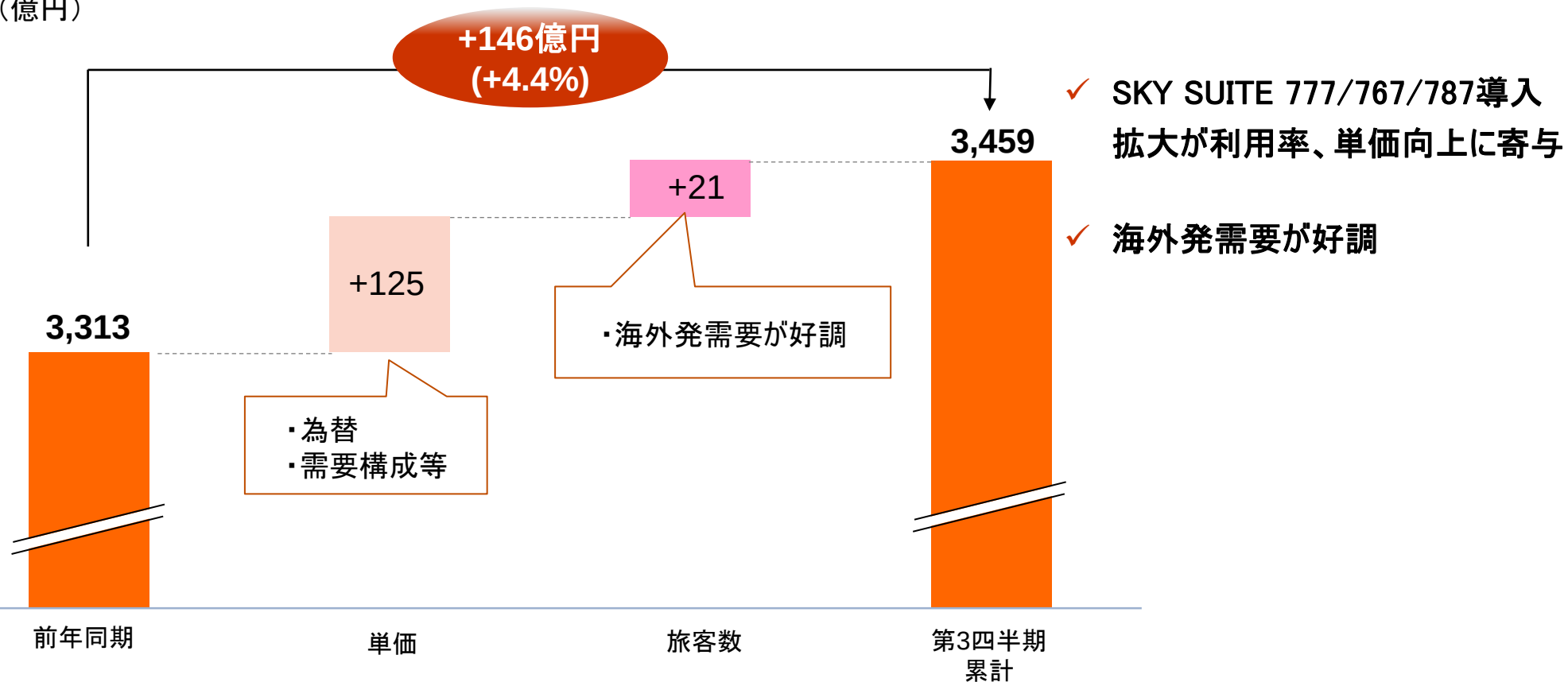
国際旅客事業（旅客収入の推移）



JAPAN AIRLINES

2015年3月期 第3四半期

（億円）



- 国際旅客事業の状況については、当第3四半期では、居住性・機能性を大きく進化させたSKY SUITEの導入拡大により単価が向上いたしました。
- また、海外発のお客さまが前年比で約1割増加するなど、円安やビザ緩和の効果により海外発需要が好調に推移しております。
- 以上により、単価要因でプラス125億円、旅客数要因でプラス21億円となり、当第3四半期の国際旅客収入は前年同期と比べ4.4%増加の3,459億円となりました。

国内旅客事業(輸送実績)



JAPAN AIRLINES

国内旅客事業の状況

	前年 同期	第3四半期 累計	前年 同期比	第3四半期 (1)	前年 同期比
旅客収入 (億円)	3,749	3,730	▲0.5%	1,248	+1.3%
ASK (百万席キロ)	28,413	27,458	▲3.4%	8,967	▲2.4%
RPK (百万人キロ)	18,095	18,242	+0.8%	6,104	+0.1%
有償旅客数 (千人)	23,841	24,056	+0.9%	8,103	+0.6%
座席利用率 (%)	63.7	66.4	+2.8pt	68.1	+1.7pt
イールド ⁽²⁾ (円)	20.7	20.4	▲1.3%	20.5	+1.2%
ユニットレベニュー ⁽³⁾ (円)	13.2	13.6	+3.0%	13.9	+3.8%
単価 ⁽⁴⁾ (円)	15,726	15,507	▲1.4%	15,406	+0.7%

- ✓ 旅客収入は3,730億円となり
前年比▲0.5%の減収
- ✓ ASK ▲3.4%に対してRPKは
+0.8%、結果座席利用率は
+2.8pt
- ✓ 単価は団体旅客数の増加及び
需要喚起型運賃の拡充等により
前年比▲1.4%

- 注:
1. 第3四半期(10-12月)の実績は第3四半期累計実績(4-12月)から第2四半期累計実績(4-9月)の実績を差し引いて算出
 2. イールド=旅客収入/RPK
 3. ユニットレベニュー=旅客収入/ASK
 4. 単価=旅客収入/有償旅客数

- 国内旅客事業の状況については、ASKが前年同期比で3.4%の減少したものの、RPKが前年同期比で0.8%の増加となり、この結果、座席利用率は、2.8ポイント増の66.4%となりました。
- 一方、国内線単価は第2四半期まで前年対比で下落しておりましたが、右側の列にあります通り第3四半期単独ではイールド、単価ともにプラスに転じております。この結果、国内旅客収入は前年同期比で0.5%減少の3,730億円となりました。

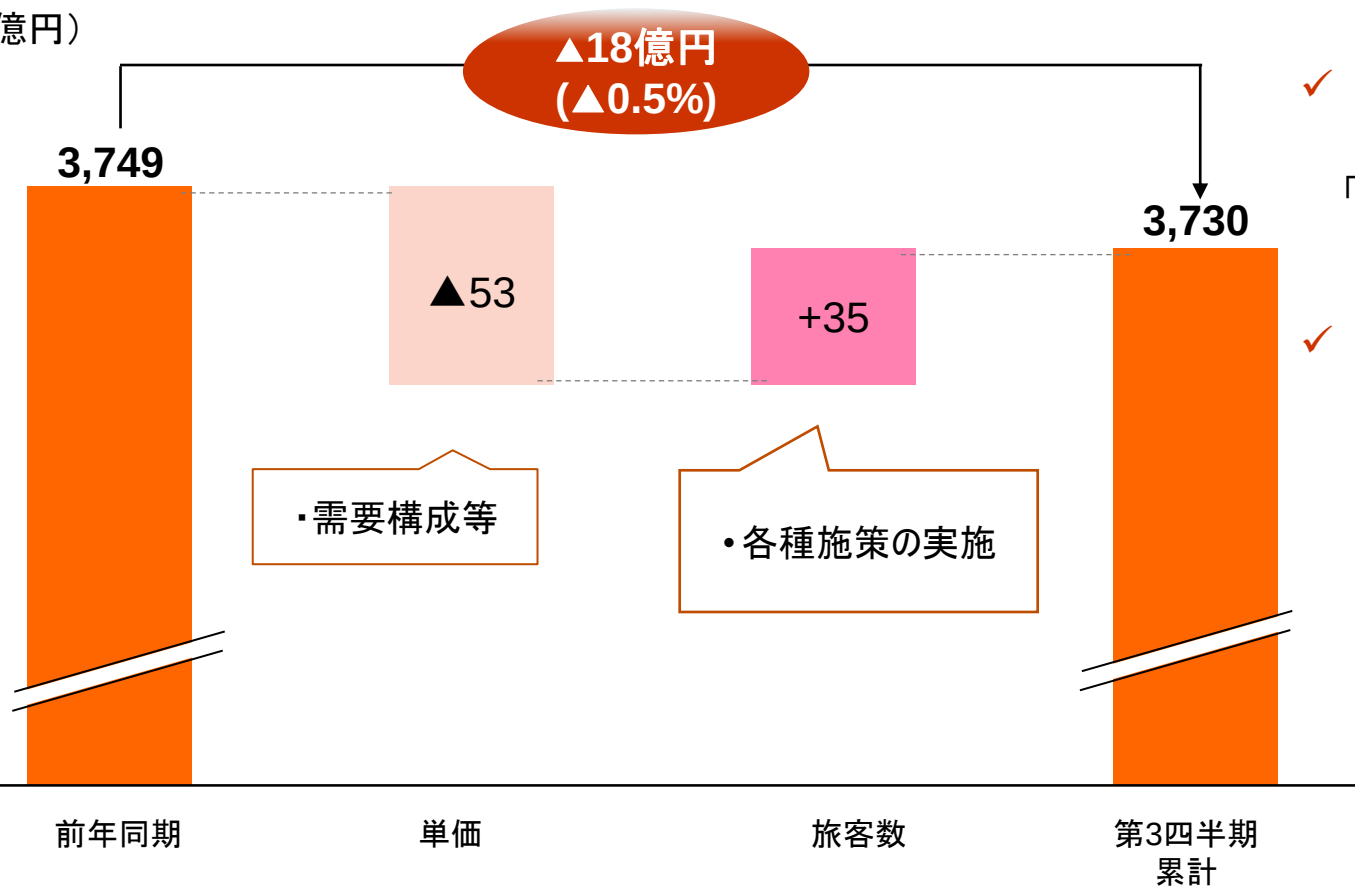
国内旅客事業（旅客収入の推移）



JAPAN AIRLINES

2015年3月期 第3四半期

（億円）



✓ 需要構成の変化

「特便割引21」利用等の需要喚起型旅客の構成比増加

✓ 各種施策の実施

- ・ JAL SKY NEXT導入
- ・ 観光商品（パッケージ商品）の予約受付期間を出発10日前までから7日前までへ延長
- ・ 訪日外国人旅行者の国内旅行推進施策

- 当第3四半期累計の国内線においては、団体旅客数の増加及び「特便割引21」等の需要喚起型運賃をご利用されるお客さまの構成比増加により、単価面では減収となりました。
- 一方、ご好評いただいているJAL SKY NEXT の導入拡大、各種施策の実施により増収となりました。

主要営業費用項目



JAPAN AIRLINES

営業費用内訳

(単位: 億円)	前年同期	第3四半期 累計	前年差	前年 同期比	第3四半期 (1)	前年差
燃油費	2,123	2,230	+107	+5.1%	716	+4
運航施設利用費	608	613	+5	+0.8%	204	+3
整備費	317	308	▲8	▲2.8%	92	▲17
航空販売手数料	169	180	+11	+6.5%	60	+3
航空機材償却費	465	502	+37	+8.0%	171	+10
航空機材賃借料	237	195	▲41	▲17.7%	63	▲15
人件費	1,764	1,789	+25	+1.4%	615	+21
旅行原価・商事 流通等(2)	723	822	+99	+13.7%	253	+12
その他	2,115	2,197	+82	+3.9%	753	+20
営業費用計	8,524	8,841	+317	+3.7%	2,932	+42

✓ 供給増・円安により燃油費は前年比107億円増

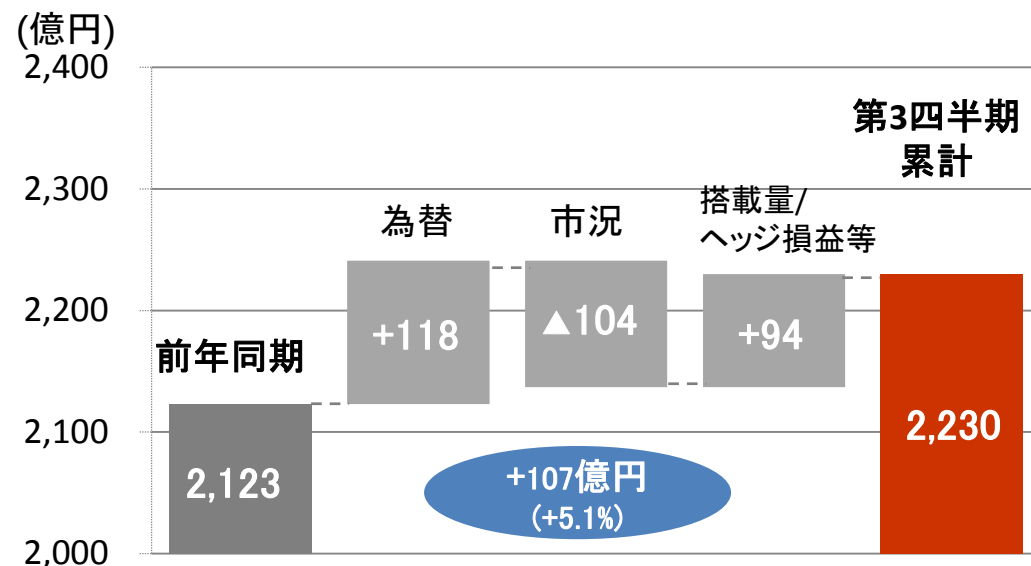
✓ リース機材の減少により航空機材賃借料が41億円減少

ASK前年比: +0.2%

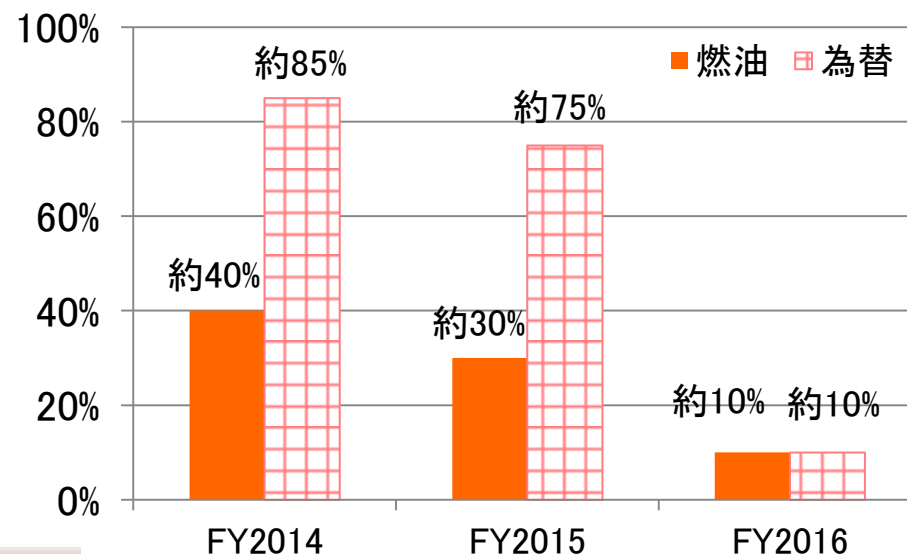
注: 1. 第3四半期(10-12月)の実績は第3四半期累計実績(4-12月)から第2四半期累計実績(4-9月)の実績を差し引いて算出
2. 関連会社に対する燃油転売を含む

- 営業費用の詳細についてですが、燃油費については、第3四半期累計では107億円増加しておりますが、昨今の燃油市況下落により第3四半期単独では前年並の水準となっております。
- 航空機材償却費は、新機材の導入やリース機買取りにより37億円の増加となっておりますがそれを上回る41億円の航空機材賃借料の削減を図っております。
- 人件費につきましては、前年より賞与水準の引き上げや為替影響等により増加しました。
- 営業費用全体では8,841億円となり、前年同期に比べプラス317億円となりましたが、このうち171億円が為替影響であったと分析しております。

燃油費増減の推移



燃油に対する年度別ヘッジ概況 (2014年12月末時点)



燃油・為替前提

	前年同期	第3四半期累計	前年同期比	2014年度見通し
為替 (円/USD)	98.8	105.0	+6.3%	106.3
シンガポールケロシン (USD/bbl)	120.8	114.1	▲5.5%	112.6
ドバイ原油 (USD/bbl)	104.4	98.9	▲5.3%	97.4

燃油費への感応度(ヘッジなし)

燃油費への影響(年間)

原油 (1USD/bblの変動)	約23億円
為替 (1円/USDの変動)	約26億円

- 燃油費増加107億円の内訳としましては、円安の影響でプラス118億円、燃油市況の下落でマイナス104億円、搭載量増加やヘッジ損益等でプラス94億円となっております。

第3四半期末 連結財務状況

(単位: 億円)	前年度末 2014/3/31	第3四半期末 2014/12/31	前年度末差
総資産	13,401	14,370	+968
現金及び預金	3,687	3,273	▲414
有利子負債残高 ⁽¹⁾	1,342	1,049	▲292
オフバランス 未経過リース料	1,455	1,309	▲145
自己資本	6,902	7,405	+503
自己資本比率 (%)	51.5%	51.5%	+0.0pt
D/Eレシオ (倍) ⁽²⁾	0.2x	0.1x	▲0.1x

✓ 有利子負債残高は返済等により292億円減少し1,049億円

注: 1. 割賦未払金を含む
2. D/Eレシオ = (オフバランス有利子負債) / (自己資本)

- 有利子負債は前年度末と比較して、リース債務及び長期借入金の返済が進み、有利子負債残高は前年度末から292億円減少し、1,049億円となりました。
- 自己資本比率は、前期末と同様51.5%となっております。

2015年3月期業績予想(連結業績)



JAPAN AIRLINES

(単位:億円)	前年度 実績	2015年3月期 今回予想	前回予想 (2014/10/31公表)	予想増減額
営業収益	13,093	13,420	13,400	+20
営業費用	11,425	11,750	11,820	▲70
営業利益	1,667	1,670	1,580	+90
営業利益率(%)	12.7%	12.4%	11.8%	+0.6pt
経常利益	1,576	1,640	1,550	+90
当期純利益	1,662	1,390	1,350	+40

	2015年3月期 今回予想	前回予想 (2014/10/31 公表)
ASK* 国際線	103.4	103.7
国内線	98.0	98.4
RPK* 国際線	102.7	103.2
国内線	100.8	101.1
*前年度実績を100として		
為替(円/USD)	106.3	104.6 (下期107.0)
シンガポールケロシン (USD/bbl)	112.6	118.7 (下期118.0)
ドバイ原油 (USD/bbl)	97.4	105.1 (下期105.0)

(単位:億円)		前年度 実績	2015年 3月期 今回予想	前回予想 (2014/10/31公表)	予想 増減額
営業収益	国際旅客収入	4,375	4,550	4,570	▲20
	国内旅客収入	4,874	4,880	4,870	+10
	貨物郵便収入	919	960	940	+20
	その他の収入	2,924	3,030	3,020	+10
営業費用	燃油費	2,833	2,960	3,050	▲90
	燃油費以外	8,591	8,790	8,770	+20
ユニットコスト(円)		8.8	8.8	8.8	+0.0

注: ユニットコスト=航空運送連結費用(燃油費、
収入費用両建ての関連会社向け取引を除く) / ASK

- 連結業績予想につきまして冒頭に記載のとおり、利益予想につきましては10月31日に公表した前回予想から上方修正をいたしております。
- 国際旅客収入予想は、前回予想より20億円の減少となっておりますが、これは足元の需要が弱含んでいるものを反映させたものです。
- ユニットコストについては、8.8円を見込んでおり、当初見通しから変更はございません。
- 当下期につきましても増収及び費用削減努力を継続し、利益の極大化を図ってまいります。

明日の空へ、日本の翼



JAPAN AIRLINES

当資料に関するお問い合わせ先

日本航空株式会社

財務・経理本部 財務部

電話番号 03-5460-3068

《参考》キャッシュフローの状況(実績)



JAPAN AIRLINES

(単位:億円)	前年同期	第3四半期 累計	前年同期差
税金等調整前四半期純利益	1,361	1,368	+7
減価償却費	619	647	+28
その他	▲144	▲171	▲27
営業キャッシュフロー合計	1,836	1,844	+7
設備投資額 ⁽¹⁾	▲971	▲1,644	▲672
その他	▲16	▲8	+8
投資キャッシュフロー合計 ⁽²⁾	▲988	▲1,653	▲664
フリーキャッシュフロー ⁽³⁾	847	191	▲656
有利子負債返済 ⁽⁴⁾	▲338	▲311	+27
配当金・その他	▲341	▲313	+28
財務キャッシュフロー	▲680	▲624	+55
キャッシュフロー合計 ⁽⁵⁾	167	▲433	▲600
EBITDA	1,994	2,030	+35
EBITDAR	2,231	2,225	▲6

注: 1.固定資産の取得による支出

2.定期預金の入出金を除く

3.営業キャッシュフロー+投資キャッシュフロー

4.長期借入金の返済+リース債務の返済

5.営業キャッシュフロー+投資キャッシュフロー+財務キャッシュフロー

《参考》国際線収入大路別実績



JAPAN AIRLINES

旅客収入 (対国際線全体比率)

(単位:%)	前年同期	第3四半期 累計	前年同期差	第3四半期	前年同期差
太平洋線	34.0%	36.5%	+2.5pt	36.0%	+2.5pt
欧州線	19.0%	17.0%	▲2.0pt	15.0%	▲2.5pt
アジア・オセアニア線	36.0%	35.0%	▲1.0pt	38.0%	▲0.0pt
中国線	11.0%	11.5%	+0.5pt	11.0%	▲0.0pt

ASK

(単位:百万席キロ)	前年同期	第3四半期 累計	前年同期比	第3四半期	前年同期比
太平洋線	12,877	13,684	+6.3%	4,616	+4.4%
欧州線	6,222	5,955	▲4.3%	1,905	▲8.1%
アジア・オセアニア線	13,073	13,611	+4.1%	4,572	+5.0%
中国線	2,669	2,695	+1.0%	863	▲4.5%

RPK

(単位:百万人キロ)	前年同期	第3四半期 累計	前年同期比	第3四半期	前年同期比
太平洋線	10,152	11,032	+8.7%	3,591	+4.2%
欧州線	4,855	4,536	▲6.6%	1,402	▲11.0%
アジア・オセアニア線	9,913	9,795	▲1.2%	3,380	▲0.6%
中国線	1,636	1,738	+6.2%	542	+3.2%

有償旅客数

(単位:千人)	前年同期	第3四半期 累計	前年同期比	第3四半期	前年同期比
太平洋線	1,322	1,412	+6.8%	461	+2.1%
欧州線	524	495	▲5.6%	152	▲10.4%
アジア・オセアニア線	3,064	2,968	▲3.1%	1,008	▲2.4%
中国線	875	931	+6.4%	290	+2.4%

Load Factor

(単位:%)	前年同期	第3四半期 累計	前年同期差	第3四半期	前年同期差
太平洋線	78.8%	80.6%	+1.8pt	77.8%	▲0.1pt
欧州線	78.0%	76.2%	▲1.9pt	73.6%	▲2.4pt
アジア・オセアニア線	75.8%	72.0%	▲3.9pt	73.9%	▲4.2pt
中国線	61.3%	64.5%	+3.2pt	62.8%	+4.6pt

《参考》保有航空機一覧



JAPAN AIRLINES

		前年度末 2014/3/31			第3四半期末 2014/12/31			増減
		所有	リース	合計	所有	リース	合計	
大型機	Boeing 777-200	15	0	15	13	0	13	▲2
	Boeing 777-200ER	11	0	11	11	0	11	-
	Boeing 777-300	7	0	7	7	0	7	-
	Boeing 777-300ER	13	0	13	13	0	13	-
	大型機 小計	46	0	46	44	0	44	▲2
中型機	Boeing 787-8	15	0	15	18	0	18	+3
	Boeing 767-300	15	0	15	14	0	14	▲1
	Boeing 767-300ER	18	14	32	23	9	32	-
	中型機 小計	48	14	62	55	9	64	+2
小型機	MD90	0	0	0	0	0	0	-
	Boeing 737-400	11	2	13	12	0	12	▲1
	Boeing 737-800	21	29	50	21	29	50	-
	小型機 小計	32	31	63	33	29	62	▲1
リージョナル機	Embraer 170	15	0	15	15	0	15	-
	Bombardier CRJ200	9	0	9	9	0	9	-
	Bombardier D8-400	9	2	11	9	2	11	-
	SAAB340B	10	1	11	14	0	14	+3
	Bombardier D8-300	1	0	1	1	0	1	-
	Bombardier D8-100	4	0	4	4	0	4	-
	リージョナル機 小計	48	3	51	52	2	54	+3
合計		174	48	222	184	40	224	+2

《参考》2015年3月期業績予想(貸借対照表/キャッシュフロー)



JAPAN AIRLINES

連結貸借対照表

(億円)	2014年3月期 実績	2015年3月期 今回予想	前回予想 (2014/10/31公表)	予想増減額
総資産	13,401	14,610	14,610	+0
有利子負債残高	1,342	990	1,010	▲20
自己資本	6,902	7,650	7,680	▲30
自己資本比率 (%)	51.5%	52.4%	52.6%	▲0.2pt
ROE (%) ⁽¹⁾	26.5%	19.1%	-	-
ROA (%) ⁽²⁾	13.0%	11.9%	11.3%	+0.6pt

連結キャッシュフロー

(億円)	2014年3月期 実績	2015年3月期 今回予想	前回予想 (2014/10/31公表)	予想増減額
営業キャッシュフロー	2,479	2,430	2,490	▲60
投資キャッシュフロー ⁽³⁾	▲1,667	▲1,940	▲1,970	+30
フリーキャッシュフロー ⁽³⁾	812	490	520	▲30
財務キャッシュフロー	▲619	▲670	▲620	▲50
EBITDA	2,495	2,540	2,450	+90
EBITDAR	2,810	2,800	2,710	+90

注: 1. ROE = (当期純利益)/(期首自己資本額+期末自己資本額)/2

2. ROA = (営業利益)/(期首総資産額+期末総資産額)/2

3. 定期預金の入出金を除く

《参考》2015年3月期業績予想(航空運送事業)



JAPAN AIRLINES

前年同期比% (座席利用率を除く)	国際旅客			国内旅客		
	第3四半期 累計(実績)	第4四半期 (予想)	2014年度 (予想)	第3四半期 累計(実績)	第4四半期 (予想)	2014年度 (予想)
ASK	+3.2%	+4.2%	+3.4%	▲3.4%	+2.6%	▲2.0%
RPK	+2.1%	+4.6%	+2.7%	+0.8%	+0.9%	+0.8%
有償旅客数	+0.4%	+2.8%	+1.0%	+0.9%	+1.1%	+1.0%
座席利用率 (%)	75.4	77.8	76.0	66.4	64.1	65.9
イールド	+2.3%	+0.1%	+1.8%	▲1.3%	+0.8%	▲0.8%
ユニットレベニュー	+1.2%	+0.4%	+1.0%	+3.0%	▲0.8%	+2.0%
単価	+4.0%	+1.8%	+3.5%	▲1.4%	+0.6%	▲0.9%

《参考》2015年度路線便数計画 概要(国際線)

2015年1月21日公表



JAPAN AIRLINES

新規開設・増便

路線	時期	変更内容(往復)	機材	便名/発着時刻
関西＝ロサンゼルス	2015年3月20日～10月24日	週間0便⇒7便	787-8	JL060 関西発17:40-ロサンゼルス着12:00 JL069 ロサンゼルス発14:30-関西着19:00+1(1)
成田＝モスクワ	2015年3月29日～10月24日	週間3便⇒4便 (月曜日を追加)	787-8	月、水、金、日運航 JL441 成田発 10:45 - モスクワ着 15:00 JL442 モスクワ 17:15 - 成田 08:35+1

機材変更

路線	時期	便名	投入機材	備考
成田＝パリ	2015年3月29日～	JL415/416	787-8	SKY SUITE 787(SS8) (2)
成田＝ヘルシンキ	2015年6月1日～	JL413/414	787-8	SKY SUITE 787(SS8) (2)
成田＝ジャカルタ	2015年7月1日～	JL725/726	787-9	SKY SUITE 787(SS9) (3)
成田＝デリー	2015年3月29日～	JL749/740	787-8	SKY SUITE 787(SS8) (2)
成田＝ホノルル	2015年3月29日～	JL784/783 JL786/785	767-300ER	SKY SUITE 767(SS6)
成田＝マニラ	2015年3月29日～ 2015年6月1日(*4)～	JL741/742 JL745/746	767-300ER	SKY SUITE 767(SS6)

その他の機材変更

路線	時期	便名	変更内容(往復)	備考
成田＝フランクフルト	2015年3月29日～10月24日	JL407/408	787-8 → 777-300ER	(5)
羽田＝バンコク	2015年3月29日(6)～6月30日 2015年7月1日～	JL033/032	777-200ER → 787-8 787-8 → 777-200ER	(7)
羽田＝ホーチミン	2015年3月29日～	JL079/070	767-300ER → 787-8	
成田＝ホーチミン	2015年3月29日～	JL759/750	767-300ER → 787-8	
成田＝シドニー	2015年3月29日(8)～	JL771/772	777-300ER → 777-200ER	(9)
羽田＝北京	2015年3月30日～	JL021/022	767-300ER → 787-8	
羽田＝ソウル(金浦)	2015年3月30日～	JL091/092 JL093/094	767-300ER → 787-8	
羽田＝台北(松山)	2015年3月29日～	JL097/098	777-200ER → 767-300ER	
関西＝上海(浦東)	2015年3月29日～	JL891/894	767-300ER → 737-800	
関西＝台北(桃園)	2015年3月29日～	JL813/816	767-300ER → 787-8	

運休

路線	便名	時期	変更内容(往復)	備考
関西＝ソウル(金浦)	JL971 /974	2015年 3月29日	週間7便⇒0便	(10)

- (1) 2015年3月20日～28日
JL060 関西発15:20-ロサンゼルス着09:20
JL069 ロサンゼルス発11:20-関西着15:50+1
- (2) 新たにプレミアムエコノミーサービスを設定。
- (3) 「SKY SUITE777」(SS7)機材からの変更に伴い、ファーストクラスサービスを休止。木曜のみ787-8型機のSS8にて運航。
- (4) JL746便は6月2日よりSS6へ機材変更
- (5) SKY SUITE777(SS7)機材で運航。ファーストクラスサービスを再開。
- (6) JL033便は3月30日より787-8型機へ機材変更
- (7) 3月29日～6月30日の間プレミアムエコノミーサービスを休止。
- (8) JL772便は3月30日より777-200ER型機へ機材変更
- (9) ファーストクラスサービスを休止。
- (10) 関西＝ソウル(金浦・仁川)線はKE(大韓航空)運航のコードシェア便で継続。

※上記計画とスケジュールは関係当局の認可を前提としております

《参考》2015年度路線便数計画 概要(国内線)

2015年1月21日公表



JAPAN AIRLINES

季節運航（継続）

路線	内容(往復)	期間
伊丹＝松本	1日1便	2015年8月1日～8月31日
伊丹＝女満別	1日1便	2015年7月18日～7月20日、7月25日～8月31日
新千歳＝出雲	週間 4便	2015年8月1日～8月31日 月・水・金・日運航
新千歳＝徳島	週間 3便	2015年8月1日～8月31日 火・木・土運航
中部＝釧路	週間 3便	2015年8月1日～8月31日 火・木・土運航
中部＝帯広	週間 4便	2015年8月1日～8月31日 月・水・金・日

増便

路線	変更内容(往復)	変更期間
羽田＝新千歳	1日16便 ⇒ 17便	2015年3月29日～10月24日
羽田＝那覇	1日12便 ⇒ 14便	2015年3月29日～10月24日
伊丹＝新千歳	1日 3便 ⇒ 4便	2015年3月29日～

減便

路線	変更内容(往復)	変更期間
羽田＝伊丹	1日16便 ⇒ 15便	2015年3月29日～
羽田＝出雲	1日6便 ⇒ 5便	2015年3月29日～
関西＝新千歳	1日 4便 ⇒ 3便	2015年3月29日～

本資料には、日本航空株式会社(以下「当社」といいます)及びそのグループ会社(以下当社と併せて「当社グループ」といいます)に関連する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述が含まれています。これらは、当社が当該資料作成時点(又はそこに別途明記された時点)において入手した情報に基づく、当該時点における予測等を基礎として作成されています。これらの記述のためには、一定の前提・仮定を使用しています。これらの記述又は前提・仮定は当社経営陣の判断ないし主観的な予想を含むものであり、様々なリスク及び不確実性により、将来において不正確であることが判明し、あるいは将来において実現しないことがあります。したがって、当社グループの実際の業績、経営成績、財政状態等については、当社の予想と異なる結果となる可能性があります。かかるリスク及び不確実性には、日本その他の国・地域における経済社会状況、燃油費の高騰、日本円と米ドルその他外貨との為替レートの変動、テロ事件及び戦争、伝染病その他航空事業を取り巻く様々なリスクが含まれますが、これらに限定されるものではありません。

本資料に掲載されている将来情報に関する記述は、上記のとおり当該資料の作成時点(又はそこに別途明記された時点)のものであり、当社は、それらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有しておりません。

本資料に掲載されている情報は、情報提供を目的としたものであり、いかなる有価証券、金融商品又は取引についての募集、投資の勧誘や売買の推奨を目的としたものではありません。

本資料への当社グループに関する情報の掲載に当たっては万全を期しておりますが、監査を経ていない財務情報も含まれており、その内容の正確性、完全性、公正性及び確実性を保証するものではありません。従いまして、本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではありません。

なお、本資料の著作権やその他本資料にかかる一切の権利は日本航空株式会社に属します。